

# 旭川医大 病院ニュース



(編集) 旭川医科大学病院  
広報誌編集委員会委員長  
廣川博之

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/>

## 手術部教授に就任して

手術部教授 平田 哲



5月15日付けで旭川医科大学手術部教授に就任いたしました。私は本学の2期生で1980年に卒業し、第1外科学教室で20年間、主に腫瘍外科を学び、8年前に手術部に着任した後は手術部運営管理・手術部再開発・安全管理・病院経営に係る

仕事に携わってまいりました。

その間、大学法人化や包括医療費制度の導入など大学病院を取り巻く環境も大きく変化しました。その影響で先生や職員の意識も変わり、いろいろな点で医大病院も変わりました。手術部では、手術件数は昨年度、約6000件となり、10年前の平成9年度の2952件からみますと、ちょうど2倍となりました。

同規模の国立大学では最も多く手術をしている施設となり、手術部のみならず、他部署も大変な時期を乗り越えてこれたと思います。

同時に、院内ではいろいろな問題も明確になり、昨年より吉田晃敏学長の発案で、病院内にタスクフォース会議が立ち上げられました。タスクフォース会議は病院長先生がチーフとなって院内の問題点と、その打開策を考える会で、職種にこだわらない会話がなされる場となっております。現在5つのサブワーキングが進行していますが、その中の「ICU増床」「手術」「救急」の3つのサブワーキングの座長を仰せつかり、対策を立てております。この3つのサブワーキングは、いずれも密接な関係があり、現在、関連する問題点を洗い出している状況です。現状の問題をいつまでも先延ばしすることがないよう、スピード感が重要と考えております。そのためにも、現場の皆さんの声のご協力が必須と感じております。若い人がどんどん集まる職場と研究の場になるよう、私も中央部門の教員として努力してゆく所存ですので、今後とも一層のご指導、ご協力をお願いいたします。

## 病理部教授就任挨拶

病理部教授 三代川 斉之



この度、平成20年5月15日付けで病院病理部教授を拜命致しました。私は、3期生として本学を卒業し、本学大学院・米国ミネソタ大学免疫生物学研究所研究員・病理学第二講座(現病理学講座免疫病理)講師を経て病理部に赴任しましたが、早い

もので病理部生活16年になろうとしています。

さて、本学病院病理部に専任教授が任命されるのは初めてのことです。これで札幌医科大学附属病院、北海道大学病院に続いて道内3大学全ての病院病理部に専任教授が揃ったこととなります。北海道ばかりでなく全国の国立大学法人の病院病理部でも専任教授が続々と就任しているのも事実です。高度先進医療を担う大学病院における病理部という部門の果たすべき役割が益々重要になってきている現われで

あると感じています。

一方、本年4月には、「外科」や「内科」と同様に「病理診断科」という名前で病院・医院が開業出来る『病理診断科の標榜化』が実施されました(患者も診られない病理医が「開業してどうするんだ?」という声があるのも事実ですが…)。また、本年度の医療報酬改定に際しては医療報酬全般が削減される中で、病理診断に関しては実質増額の決定がなされました。現代医療の中で病理診断の必要性・重要性が漸く世の中に認識されてきた現われなのかもしれません。

このような流れの中で、病院病理部の専任教授として就任することは、本学病院に寄与するばかりでなく、地域医療や現代医療の中でも重大な任務を任されたものと重責を感じております。

今後は、病理診断を通じての地域医療への貢献ばかりでなく、現代医療における絶滅危惧種の病理専門医(全国でわずか1900人ほど、全医師数の0.7%、米国は2%以上)の育成に全力を挙げて行きたいと考えております。そのためには、病理部の安定した運営とスタッフの充実が必要不可欠です。皆様には、今後とも病理部の運営に御理解御協力賜ります様宜しくお願い申し上げます。

## 呼吸器センター教授に就任して

呼吸器センター教授 大崎能伸



旭川医科大学病院が医療の中核として機能するために、高度な専門技術をもった専門医を育成することを目的として呼吸器センターが開設されることになり、センター長の重任を拝命いたしました。

呼吸器疾患の特性として、自覚症状が強いこと、進行が早く、進展が生命に直結することなどが挙げられます。このような疾患の診療は総合内科医には負担が大きく、呼吸器専門医との連携が不可欠です。また、呼吸器診療では、画像診断、内視鏡診断、血管造影検査、抗癌剤、抗菌薬療法、酸素療法、穿刺による治療、細胞診断、病理診断など高い専門性が必要とされます。しかし、全国的にも呼吸器内科医、呼吸器外科医の不足が深刻で、診療を充実させるために呼吸器部門の必要性が高いことが指摘されてきました。

以前より、旭川医科大学病院では呼吸器内科の外来診療を5名の医師で週7こま開設してきました。平成19年上半期の診療単価は循環器系9,405円に

対して14,318円、外来医1人あたりでは循環器290,424円/週に対し359,337円/週の収入を挙げています。初診患者数は循環器系121人に対して163人、紹介患者は79人に対して93人と外来診療成績においても旭川医科大学における呼吸器診療は重要であることがわかります。また、腫瘍外科での肺腫瘍の切除症例の増加は著しく、昨年は60例以上、今年は5月末まですでに45例を超えています。全道で100例を超える施設は2、3施設しかありません。呼吸器センターが充実して機能が発揮できるようになれば、ますます旭川医科大学病院の診療、研究、教育の充実に寄与することが期待され、呼吸器センター長の重責を担うことは身が引き締まる思いです。

今後は、腫瘍外科での「悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索」、呼吸器内科での「カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法」などの先進医療を進展させ、より高度な診療の開発と継続を目指したいと考えています。また、呼吸器系は学生の講義、試験、実習などで重要な分野のひとつです。今後は、外科系と内科系が共同で呼吸器センターを構築することにより、実習や研修の系統化が可能になり、疾患に対する興味と理解が深まることが期待されます。

新しい呼吸器センターの運営には、何より皆様のご協力が不可欠です。是非ご支援をいただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

## 診療技術部長就任挨拶

診療技術部長 西部茂美



本年2月20日付けで、初代診療技術部長に就任いたしました。診療技術部は、臨床検査・輸血技術部門（武田悟部門長）、放射線技術部門（西部茂美部門長）、病理技術部門（加藤志津夫部門長）、理学療法技術部門（朝野裕一部門長）、臨床工学技術部門（宗万考

次部門長）の5部門から構成されます。技術部長、部門長等、全て技術職員で構成された、病院長直轄の組織となり、病院運営、経営面での積極的な参画が可能となりました。この結果、部門間の業種を超えた連携のもと、人員配置の見直し等、経営の効率化を目指す組織造りを念頭に発展させたく考えております。

さて、振り返ると、見えない光と向き合いながら、32年の歳月を経ました。何とか、自分なりに放射線技師という職業を一步でも前へ進めたい、見える光に変えたいという執念と情熱から、コツコツと、とりわけ学術面に力を注いできました。特に13年前のアメリカのStanford大学、次いで11年前のオーストラリアのPrince Henry大学での放射線腫瘍学に関する研修を通じて、直接異文化に触れることで自己の世界観は広がり、放射線治療に関して心血を注げるものを見つけることができました。

研修中、Dr. Robert Smee教授のある言葉が私を

著しく発憤させました。『君はMr. か？ Dr. か？そして君は何ができるのか？』…重い問いかけだ。帰国後、今までの研究成果を纏め、学位を取得しようとして決意して悪戦苦闘した結果、大学院関係者のご理解とご支援を得て、平成13年6月に旭川医科大学から博士（医学）の学位を授与されました。その後の大学設置審議会の答申によると、大学院を高度専門職業人の育成と位置づけ、医療における保健医療職の役割も、社会の要請とともに大きく変遷しようとしていることが伺えます。特に、文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」の中で、医学物理士・放射線治療品質管理士養成のための修士・博士課程が全国29の拠点大学で設置されています。また、医師以外の医療技術職の足並みが揃うことで、病院運営における意志決定の場にチームの一員として、医療技術職側からも参画できるようになります。この事はより一層の責任と義務、確かな情報の収集力と信頼性が要求されますが、結果として、必ず患者の利益に繋がります。一つの専門的職業が社会的に認知され成長してゆくためには、その職業の果たすべき社会的役割と時代の流れを見据えた目標の設定が不可欠となります。

具体的な行動実績として、平成9年に「直線加速器による定位放射線治療」で高度先進医療の承認を得、平成19年7月に「強度変調放射線治療」で先進医療の承認を得たことが挙げられます。科学研究費補助金（奨励研究）の助けもあり、医学物理面で大きく貢献することができました。

一方、放射線部の管理運営面では油野部長をアシストして、大学の経営者側へ、老朽化した放射線関連機器更新の絶間なき陳情と提出資料の説明、非常勤職員の雇用対策とその常勤化に向けての申し出、

部内人員配置の見直しとスタッフ及び主任ローテーションの実施、労基法に基づいた当直勤務体制の整備と当直バックアップ人員の効率的な配置、部稼働実績のデータベース化、更には最も困難であった部の段階的改修工事の立案とその間の検査対応のやり繰り等貴重な体験となりました。

今後は、診療技術部を掌理するにあたり、その具体的な役割と目標の設定を以下に記載します。診療技術部門間の横のつながりを強化することで、

- ①専門技術集団として、患者のために、より安全で質の高い診療技術を提供できる、職業的教育・研究組織創りを目指します。
- ②関連医療機器の更なる安全使用の実現に向け、適切な保守及び品質を維持するための安全機器管理に係る体制創りを目指します。

③関連する医療情報システムの効率的な運用を図るために、適正な情報管理システムを構築できる組織創りを目指します。

④部門間の業種を超えた連携を基に、適正な人員配置の見直しなど経営の効率化と収支分析結果を踏まえた企画提案ができる組織創りを目指します。

⑤診療技術部が中心となって企画した研修会等を通じ、院内のみならず地域における関連職種のスキルアップを目指します。

以上のことより、放射線部での職務経験（実績）を活かし、診療・教育・研究を通して病院経営・運営と診療上の安全管理面で貢献できるように、全精力を投入する所存です。

吉田学長、松野病院長をはじめ多くの諸先生方のご支援に対しまして深謝申し上げます。

## 総務部長就任挨拶

総務部長 中村 幸人



本年 4 月 1 日付けで総務部長を拝命いたしました中村幸人でございます。本学発展のため微力ではありますが最善を尽くす覚悟でございますので、どうぞよろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

私は、北海道出身で公務員として最初に採用されたのが小樽商科大学でございました。24歳で本省転任となってから28年目で久しぶりの北海道勤務を命ぜられ、昨年 4 月に北海道教育大学に勤務することとなりました。引き続き、北海道で唯一の医科単科である本学で勤務できますことを有り難く思っております。

さて、国立大学も法人化され既に 4 年が過ぎ、本

年度は前倒しで中期目標期間に対する評価を受けることとなっております。全国の国立大学が法人化後の安定した運営が定まらないであろうこの時、第一期の評価を受け、その結果を第二期の 6 年間に反映させるといふ大事な時期に本学で勤務させていただくことに身の引き締まる思いです。

吉田学長が提言されている「教育改革のグランドデザインの完成」、「研修医の待遇改善」、「学生生活の充実」、「病院運営の改革」等々の「新生へのビジョン」のための具体的提案を着実に実現していくための努力こそ、本学が迎えた大切な節目の時期における私の使命であると思いを新たにしております。

改めまして、微力ではございますが、これまでに学び、教えられてきたことを生かしながら、吉田学長が教育の目標とされている「高い志、深い配慮」という言葉を自らに投げかけ、本学の進むべき道を多くの職員の方々とともに歩んでまいりたいと考えております。学長をはじめ、学長事務総括、執行部、そして共に働く本学職員の方々におかれては、どうか忌憚りの無いご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 病院事務部長に就任して

病院事務部長 菅原 豊彦



4 月 1 日付で病院事務部長に就任いたしました菅原豊彦でございます。旭川医科大学には今回で 3 度目の勤務となります。

初回は、昭和 52 年秋に千葉大学より転任して平成 2 年に横須賀市所在の文部省所轄の試験研究所へ転任するまでの 13 年間と云う長い間勤務させて頂きました。今から 30 数年前の昭和 52 年の秋は、丁度、本院開院 1 周年の頃だったこと、またその頃は翌年の東病棟オープンに向けた準備などで大変忙しい毎日だったことが思い出されます。この 13 年間には大勢の皆さんにお世話になりながら、国立大学職員として必要な多くのことを学ばせて頂いたことに大変感謝しております。

二度目は、平成 14 年 4 月に苫小牧工業高専庶務課長から医事課長として異動してまいりました。平成 16 年 3 月までの 2 年間と云う短い期間でしたが、国立大学病院の運営について大変勉強させて頂きました。特にこの頃は、国立大学法人への移行準備や医療安全管理体制の整備、病院経営健全化に向けた取り組みなどで毎日が過ぎていったと記憶しています。

そしてこのたびは、病院事務部長として旭川医科大学に再びお世話になることになりました。着任早々、8 階東病棟に入院するなど仕事始めに多少つまずきがありましたが、先般、当部所管の経営企画課及び医療支援課より、所掌する事務上の諸課題・懸案事項等について説明を受けましたので、早速、これらの諸課題等に取り組んでいるところですが、一つでも多くこれを解決できるように努めたいと考えております。

そして、旭川医科大学病院のさらなる発展に役に立つ病院事務部でありたいと思いますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 【薬剤部】

## 新薬紹介(53)

## シアノキット注射用セット

中毒起因物質は無数に存在するが、それらに対する解毒剤は数少なく、なかでも製剤化され、薬価基準収載されているものは限られている。中毒の治療には解毒薬のほか、催吐剤や吸着剤、さらに様々な治療薬剤があるが、今回シアン中毒に適応を持つ解毒剤「シアノキット注射用セット」が薬価基準収載・発売となったので紹介する。

急性シアン中毒は、工場災害や火災、化学テロおよび自殺企図によって起こる可能性がある。機序としては、シアン化物イオンがミトコンドリア中のチトクローム酸化酵素の働きを阻害し、細胞内での酸素利用を阻害し、乳酸アシドーシスを招くことによって起こり、痙攣、意識障害、呼吸停止などの重篤な症状をきたす。火災煙による中毒の場合、一酸化炭素など他の有毒物質による中毒の可能性もあるが、シアン中毒では、出来る限り速やかな治療が必要と

なるため、疑いがある時点で、診断を待たずに投与を開始する必要がある。現在、シアン中毒の治療に用いられている薬剤には亜硝酸製剤やチオ硫酸ナトリウム(デトキソール注)等があるが、亜硝酸製剤の過量投与により、メトヘモグロビン血症を引き起こす可能性が懸念されていた。本製剤の成分であるヒドロキソコバラミンはビタミンB12のシアノコバラミンと類似構造をしており、シアンと反応することによってシアノコバラミンとなり無毒化され、尿中に排泄される。従って、亜硝酸製剤で見られているような副作用はない。本製剤は、ヒドロキソコバラミンの凍結乾燥製剤、生理食塩液、輸液のセット製剤となっているため、簡便な緊急時の投与が可能となっている。しかし、国内での臨床試験は行われていないため、使用に関する情報は海外の成績に限られており、使用する際はより厳重な注意を要する。

また、当院では他の解毒剤としてプラリドキシムヨウ化メチル(パム注)やジメルカプロール(バル注)を常備している。パム注は有機リン剤、バル注はヒ素、水銀、鉛、ビスマス、クロム、アンモチンの解毒に用いる。(薬品情報室 梅津典子)

## 輸血・細胞療法部門発(51)

## 輸血部門の夜警さん

いつも安全で適正な輸血にご協力頂きありがとうございます。輸血・細胞療法部門で多くの血液製剤、幹細胞などを保管・管理していることは、すでにご承知のことと思います。新たに勤務しはじめた方が多い時期なので、血液の保存方法を再確認してみましょう。

赤血球濃厚液(RCC)は2~6℃で冷蔵、新鮮凍結血漿(FFP)は-20℃以下で冷凍、濃厚血小板(PC)は振とうしながら室温で保存します。各製剤に適した保存法を厳守しなければ、製剤の性状・性質が変化して使用不可能となります。約2年前にはRCCの時間外持ち出し時に冷蔵庫の扉を閉め忘れたことにより、庫内にあったRCC36バックをすべて廃棄せざるを得ませんでした。その損害額は453,269円にものぼりました。

救急部の本格稼働や独立法人化を背景に、年々、

手術数は伸びています。それに伴い、RCC使用量も増加傾向にあります(2003年;4,823単位、2004年;5,303単位、2005年;6,051単位、2006年;7,327単位、2007年;7,676単位)。輸血部門ではその時々状況に対応できるようにRCCの在庫量を調整していますが、最近は平均在庫量も増加傾向にあります。このような中、貴重な血液の無駄な廃棄を減らすため、平成17年1月に約80万円をかけて保冷库温度異常自動通報機を設置しました。この通報機は保冷库内の温度が設定温度より上昇すると、緊急検査室の電話や輸血担当者の自宅の電話を順次鳴らし、異常を報告する機能を有しています。本機器を設置後約2年半たちますが、この間に7~8回の警報が作動し、約600万円分の血液製剤を救うことができました。

本来は臨床検査技師が24時間体制で血液製剤の管理や注文・払い出しを行うのが理想ですが、ご存じのようにマンパワー不足で今のところ実施は不可能です。そのため、時間外には担当の先生方にこれらの業務をお願いしているのが現状です。輸血部門の夜警さんとも呼べる自動通報器という強い味方がいますが、貴重な血液を廃棄することにならないように、保冷库のドアはやさしくしっかりと閉めるようお願い致します。

## 旭川医科大学が総務省 「国際連携賞」を受賞

旭川医科大学遠隔医療センターが中心となって行った、産学官共同のプロジェクト「立体・ハイビジョン方式とブロードバンドを活用した眼科医療における遠隔医療の検証・高度IT共同実験」が、総務省、独立行政法人情報通信研究機構（NICT）のJGN2（※）の研究開発活動で、特に優れた成果を上げたと認められ2008年1月17日「国際連携賞」を受賞した。

このプロジェクトは、高精細画像の双方向伝送型プラットフォームを構築し、「3次元による高精細画像」である眼科顕微鏡手術画像を、JGN2を利用して医療支援に必要な画像情報をリアルタイムに配信し、遠隔医療の国際展開を幅広く推進したものである。

具体的には、シンガポールのナショナル・アイ・

センター、タイのチュラロンコン大学、そして旭川医科大学を結び、高精細立体動画（3D-HD方式）でライブ手術をリアルタイムで伝送し合いカンファレンスを行った。この3D-HDの伝送方式も旭川医科大学と民間企業が新たに開発し実証したもので世界で初めての「バーチャルシンポジウム」であった。このことは、これからの国際学術会議のあり方を大きく変える可能性をも秘めたものであり、今後の発展が大いに期待されているところである。

（※）JGN2は、研究開発用ギガビットネットワークのことで、新たな超高速・高機能研究開発テストベッドネットワークとして、NICTが運用を開始したオープンなテストベッドネットワーク環境である。次世代のネットワーク関連技術の一層の高度化や多彩なアプリケーションの開発など、基礎的・基盤的な研究開発から実証実験までを推進することを目指している。



## 「北海道メディカル ミュージアム」で 中高生に医療・医学への誘い

北海道メディカルミュージアムは、平成15年より社会貢献の一環として、最新の医療・医学・健康管理に関する知識を、道北を中心とした地域住民にインターネットで提供している旭川医科大学のプロジェクトである。

平成19年度は元文部科学大臣遠山敦子氏が会長を務める“全日本社会貢献団体機構”からの助成金を受け、活動の厚みが増した。すなわち、昨年度までに11回を数えるが、特に平成20年1月には中高生を



意識したテーマ「脳の働きと心との関係」と題し、生理学講座 高草木准教授が易しく楽しく解説した。

北海道メディカルミュージアムは、医療・医学情

報を一般向けに解りやすく発信することを心がけ実践してきているが、中高生を対象にしたプログラムでは早期から生命の大切さを感じ取り、医療・医学への興味を抱かせることにより、将来の医療人の育成に繋がりたいという思いがある。折から、北海道教育委員会が地域医療の担い手育成を目的に、医学部進学を志望する高校生



を支援する「医進類型指定校」に医育大学訪問や医師による講演会などを計画しているが、旭川医大の本事業はこうした方向性とも一致するものであり、今後も益々事業の充実を計画しており、医療・医学分野における一層の社会貢献を果たしたい。

さらに、これまでの一部内容をデジタルコンテンツとしてデータベース化し、インターネットからいつでも視聴できるビデオ・オン・デマンドシステムも構築した。大学内からも次のアドレスで閲覧が可能である。 <http://www.u-p.co.jp/hmm/04.html>

## 病院ライブラリー開館時間の延長について

病院ライブラリーは、平成19年4月9日に東病棟1階に開館し、この4月で一周年を迎えました。利用者数は開館当初と比較し3～4倍に増え、多くの方にご利用頂けるようになりました。

病院ライブラリーの設置は、

- ・患者様やご家族が、健康や病気に関する情報を自ら検索し、主体的に意思決定するなど患者参加型の医療を支援すること
- ・患者様やご家族がDVDやビデオテープの視聴覚教材やインターネットを利用できること
- ・患者様が気分転換できる空間であること

などを目的としたものですが、おかげさまで多くの利用者の皆様からご好評を頂き、また、図書の貸し出し開始など、利用者の皆様の声を反映した運営に努めてまいりました。



このたび、特にご要望が多かった開館時間の延長について、月・水・金曜日は午後4時まで開館することにいたしました。

これからも利用者の皆様の声に耳を傾けながら病院ライブラリーの運営に努めてまいりたいと考えております。



なお、この場をお借りして、これまで図書を寄贈して下さいました方々にお礼を申し上げます。また、図書（ハードカバー）の寄贈につきましては常時受け付けておりますので、患者様やご家族に読んでいただきたい図書がありましたら病院ライブラリーに直接ご持参下さいますようよろしくお願い申し上げます。

### 【開館時間】

月・水・金曜日 午前9時30分～午後4時00分

火・木曜日 午前9時30分～午後1時30分

（祝日等は休館）

（医療支援課患者サービス係 両國）

## 看護週間を振り返って

5月12日はナイチンゲール生誕にちなみ、「看護の日」と制定されています。その日を含む1週間が「看護週間」です。今年の看護フェアは、患者様へ励ましのメッセージカードを配布し、看護職の「キャリアと人生のベストバランス」をテーマにパネル写真展を開催しました。各NSから2名ずつ76枚、38名のワーク・ライフバランスのベストショットは圧巻でした。看護職がプロとして厳しい医療現場でも輝けるのは、人として家族を思い趣味をもち楽しく凛として生きているからなのだと、写真のいちまい一枚から個々の皆様が頼もしく、写真展を見た誰もが「元気」をいただいた気持ちになり好評でした。パネル写真展は5月9日～23日の間、開催しました。

例年の「ふれあい看護体験」では市内33名の高校生が参加しました。午前は病棟の患者さんからの暖かい声援や初めての白衣に照れながらも、実際の日常ケアに緊張しつつ手を添え



「看護」への理解と熱い関心を深められていました。午後は救急部の皆様の協力を得て、救急蘇生とAEDの使い方を体験し、短い時間ながら「今日から私にも人を救えるかも…」と学生の元気な笑顔が印象的でした。最終日の5月17日は市内の旭笑長屋の皆様による「落語の会」を主催しました。患者様・ご家族・面会にいらした皆様のみならず病院職員の皆様へも笑顔を届けたく実施しました。正面玄関にコーヒーの香りと寄席のお囃子・軽妙な語り・風刺のきいた小話で、ひと時の癒しの空間に延べ60名のご参加をいただきました。ご協力を頂きました関係各位の皆様には感謝申し上げます。看護フェアを通じて少しでも多くの人々に「看護の心」が届き、助けあいの輪が広がることを願って次年度の開催に向け始動したいと思います。

文責 外川（看護部）



## 薬剤師になって

薬剤部 田原 克 寿



今年 4 月から薬剤部の薬剤師として勤務させて頂くことになりました。私は富山で 9 年間勉学に励み、博士（臨床薬学）を取得した後、はるばる北海道・旭川にきました。学生時代と比べると、実家

のある帯広との距離が、かなり近くなったのを感じています。旭川医科大学病院では、薬の臨床利用の実情（使用状況や問題点等）や薬の適正使用について学びたいと思っています。

大学病院の薬剤部における業務は調剤をはじめとして、製剤、混注、TDM、病棟における薬剤管理指導など多岐に渡っています。実際に働いてみると、今まで覚えていた薬の一般名と商品名とが一致せずに苦労しています。薬品名のほかにも詳細な薬剤の使用方法や病院のシステムなど初めて知ることもあ

り、業務の大変さを感じながら勉強の毎日を過ごしています。部内の先輩方には様々なことを教えていただいたり助けられたりしており、大変感謝しています。先輩薬剤師の方々の知識や業務に対する姿勢には見習うところがあり、1 日でも早く先輩方に追いつけるよう努力していきたいと思っています。

一方で、大学病院薬剤部の魅力のひとつに実験・基礎研究が行えるということがあります。私は学生時代、薬物体内動態関連の研究を行っていました。学生生活の最後の方では実験が生活の中心であったことからか、最近ではふと実験をしたくなることがあります。今後は薬剤部での研究に参加し、色々な知見を見出したいと考えています。そして、基礎研究と臨床実務の両面から医療および旭川医科大学病院の進展に寄与していきたいと考えています。

これから旭川医科大学病院で働き、日々精進して、薬剤師としてだけでなく人間としても成長していきたいと思っています。病院の皆様とは、これから様々な場面で接することがあると思いますが、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

## 歯科研修医になって

大 蔵 洋 明  
荒 井 五 織  
岡 久 美子

私たち三人が歯科口腔外科で研修を開始してから早や一ヶ月となりました。

現在は主に歯科口腔外科外来で勤務していますが、毎日スタッフの皆様が忙しく働かれています。少しでも仕事に慣れるようにと頑張っています。しかし臨床の現場に出て、私どものレベルが、学生時代に学んだ知識や技術をまだ実践できるに至っていないことを痛感しています。

さて、診療現場において、外来、病棟のスタッフの皆様には忙しい中、優しく親切にいただき感謝しております。また、医局の先生がたには、明るくまた時に熱く厳しく私たちを指導していただきまして、ありがたい環境で研修させて頂いていただいています。



私たちが旭川医科大学で研修を希望した動機は、医科・歯科が連携して診療ができる環境で働きたいと考えたからです。これは、私ども歯科医師が診療を行う上で、口腔のみの健康だけでなく全身から見た患者様の健康を考えることのできる歯科医師になりたいと思ったからです。旭川医科大学での研修に際して、医科・歯科合同でオリエンテーションを受けさせていただきました。このことは歯学部出身の私たちにとって研修を始めるにあたり医科・歯科の距離が近いことを感じることができました。

私たちは例えるならばとれたばかりの土のついたジャガイモのようなものであり、これから洗って皮をむいて調理しなければならない存在です。そして、この料理は先生がたスタッフの皆様のチカラをかりながらまた時には患者様に教えられながら自分自身で行わなければならないと思っています。

私たちは未熟ながらも、上川地方をはじめ道東・道北地域における『歯科と医科のパイプ役』を担う一人であると自覚をもち、患者様とのつながりを大切にしながら頑張っていきたいと思っていますのでご指導、ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

## 材料部 全面外注化について



本年度より材料部の業務がワタキューセイモア㈱に全面外注化する事となりました（手術部の一部（サテライト、器械洗浄、滅菌等）も含む）。人員体制は病院調整職員 1 名、委託職員 26 名（材料部 20 名、手術部 6 名）となります。初の全面外注化であり、且つ、準備期間の短さから多少不安な船出となりましたが、開始から 2 ヶ月程度経つ今、何とか順調な滑り出しをする事ができております。また、全面外注化に伴い、新たに滅菌物のロット管理を導入する等、医療関連サービスマーク（院内滅菌消毒業務）の基準を満たす業務を実施しています。まだまだスタートしたばかりで各診療科にはご迷惑をお掛けしますが、何卒ご指導ご鞭撻賜りますようお願い致します。

## 平成19年度 患者数等統計

（経営企画課）

区 分	外 来 患 者 数			一日平均外来患者数	院外処方箋発行率	紹介率	入院患者延数	一日平均入院患者数	稼働率	前年度稼働率	平均在院日数 (一般病床)
	初 診	再 診	延患者数								
1 月	1,451	25,379	26,830	1,412.1	69.96	56.17	14,685	473.7	78.69	85.77	16.09
2 月	1,483	25,580	27,063	1,353.2	69.85	58.06	14,672	505.9	84.04	87.32	15.08
3 月	1,625	27,640	29,265	1,463.3	70.77	57.17	16,363	527.8	87.68	85.87	15.97
計	4,559	78,599	83,158	1,409.5	70.20	57.14	45,720	502.4	83.46	86.32	15.71
累計	18,460	317,709	336,169	1,372.1	70.57	57.76	185,949	508.1	84.39	86.96	16.37
同規模医科大学平均	18,740	234,443	253,183	1,035.5	85.45	52.88	188,084	513.9	84.57	85.17	18.56

## 平成20年度 広報誌編集委員会委員

◆記事の掲載希望は、下記の委員までお寄せ下さい。

委員等	氏 名	所 属	職 種
委員長	廣川 博之	経営企画部	教 授
委 員	田熊 直之	周産母子センター	准 教 授
委 員	石子 智士	眼 科	准 教 授
委 員	古谷野 伸	小児科	助 教
委 員	武田 悟	臨床検査・輸血部	副 部 長
委 員	小野 尚志	薬剤部	薬 剤 師
委 員	伊藤 廣美	看護部	副 部 長
委 員	堤 政嗣	総務課	課長補佐
委 員	沼館 敏光	経営企画課	課長補佐

## 時事ニュース News

4 月 1 日…材料部全面外注化

4 月 4 日…入学式

5 月 11 日～17 日…看護週間

5 月 12 日…看護の日

5 月 15 日…呼吸器センター実施

6 月 17 日…医師・看護師子育て支援セミナー